

平成24年度前期看護学部授業評価のまとめ

1. 講義・演習について

全体表から、授業に関心があった(評価値④～⑥)が67.9%、時期・学年が適切であった(②～④)は98.7%、予習・復習や課題等に積極的に取り組んだ(④～⑥)は65.9%で、授業が難しい(④～⑤)30.1%、到達目標を達成できた(④～⑥)77.3%、満足(④～⑥)78.8%であった。元々、授業に関心があり、予習・復習や課題等に積極的に取り組んだ学生が約7割であり、そのように回答しなかったものは約3割である。

教員の授業に関する自己点検票に、予習や復習を促すことについて、今後、改善が必要である、と記載している教員が多い。学習への動機付けをより一層強化することが必要である。また、到達度(④～⑥)では、約8割が達成できた、と回答しているが、約2割の学生は講義内容の理解にいたっていない状況が推測される。今後そのような学生へ学習の動機付けを行い、理解できるような教育方法を検討していく。

2. 実習について

全体表から、真剣な態度で取り組んだ(④～⑥)が97.5%、主体的に取り組んだ(④～⑥)が97.1%、予習・復習や課題等に積極的に取り組んだ(④～⑥)97.1%、学習目的・目標が達成できた(④～⑥)95.5%、満足(④～⑥)94%であった。9割以上が肯定的な回答をしている。学生に合わせた実習指導を受け、学習の到達度が高く、満足度が高い。実習については学内での教員の勉強会や臨地実習協力施設との検討会など地道な取り組みの成果と考えている。

教員の自己点検票から、各看護学専門領域の実習は、対象が最終学年の4年生であることから、主体的に学習ができている、という評価とともに、実習記録に時間を要し、睡眠不足や疲労から体調を崩し、欠席する学生もいることから体調管理への支援がより一層、必要である。